

コロナ禍における愛知県臨床検査技師会の学術活動への取り組み

～アンケート結果から見えるもの～

◎水野 友靖¹⁾、山本 喜之²⁾、原田 康夫³⁾、松浦 秀哲⁴⁾、片井 明子⁵⁾、内田 一豊⁶⁾、中根 生弥⁶⁾
小牧市民病院,公益社団法人愛知県臨床検査技師会¹⁾、安城更生病院,公益社団法人愛知県臨床検査技師会²⁾、JA 愛知厚生連 江南
厚生病院,公益社団法人愛知県臨床検査技師会³⁾、藤田医科大学,公益社団法人愛知県臨床検査技師会⁴⁾、愛知医科大学病院,公益社
団法人愛知県臨床検査技師会⁵⁾、公益社団法人愛知県臨床検査技師会⁶⁾

【はじめに】愛知県臨床検査技師会では、安全で適正な輸血療法を目指し、学術活動をしている。コロナ禍において対面での研修会開催が困難となり、WEBでの研修会に切り替え、開催してきた。今回、研修会後に実施したアンケート結果を解析し研修会のあり方を検討した。

【方法】コロナ前の現地研修会（計4回分）とコロナ後のWEB研修会（計5回分）のアンケートを対象とした。集計項目は参加者の年齢層、輸血業務経験年数、勤務形態（専任、兼任、日当直）、理解度、講演の期待一致度、満足度とし、WEB研修会では視聴しやすさ、現地開催との比較意見についても解析した。

【結果】アンケート回答件数と回収率は、コロナ前後でそれぞれ297件74.4%、674件61.1%であった。コロナ前後で、参加者の年齢層、経験年数、勤務形態に大きな変化はなかった。理解度は、コロナ前後でそれぞれ90%、95%であった。期待一致度、満足度は前後ともに97%以上であった。視聴しやすさは99%が視聴しやすいと回答した。現地開催と比べた自由意見では、時間に拘束されない、繰り返

し視聴可能などの意見がある一方で、直接質問できる環境がない、一部スライド音声聞こえづらいなどの意見があった。

【考察】WEB開催での理解度は現地開催と比較して上昇した。WEBでは参加者のペースに合わせ繰り返し視聴できることが要因と考えられる。大半が視聴しやすいと評価したが、スライド切替時など一部音声聞こえづらいとの声があり、今後の課題といえる。現地開催ではリアルタイムで参加者が質問できるメリットがあるが、WEBでは直接的なコミュニケーションが図りづらい。そのため、WEB開催を継続する際は会員の疑問に答える機会を設ける必要がある。

【結語】コロナ禍でも研修会の機会を失わないようWEB開催を取り入れてきた。WEB開催は繰り返し視聴できるメリットがあり、会員にも広く受け入れられた。他方、WEB開催特有の課題も見えてきた。今後も会員の期待に応えるべく、より良い研修会のあり方を模索し、輸血検査の質向上、安全な輸血療法のため、学術活動の推進に努めてまいりたい。連絡先：0568-76-4131（3118）